

近年の水田雑草発生実態と残草種

[研究のねらい]

除草剤の変遷と共に水田で問題となっている雑草も変化しています。このため、県内の雑草発生状況と除草実態を把握し、今後の雑草防除技術に役立てるため、県内全域において行ったアンケート結果を紹介します。

[研究の成果]

- ①水田の主要雑草との回答はノビエが最も多く、ホタルイ、キシウスズメノヒエが続きます（図1）。
- ②地域別に見ると、ノビエは全域、ホタルイは和海と有田を除く地域、キシウスズメノヒエは和海、那賀、日高で回答が多いです。
- ③除草剤処理後に残った草種で多く挙げられたのはキシウスズメノヒエ、クログワイ、セリ、ノビエ、コナギ、ホタルイ、カヤツリグサ類等です（図2）。
- ④除草剤使用後の残草種に対する対応策としての回答は「手取り」53%、「放置」43%、「後期剤を処理」9%でした。「放置」の回答は平成2年の調査よりも9ポイント上昇しています。

[成果の活用面・留意点]

- ①キシウスズメノヒエは発生が増加しており、除草剤処理後の残存率も高いことから、防除対策の徹底が必要です。特定の難防除雑草を増やさないために、除草剤のローテーション化、残存草種の防除が必要です。

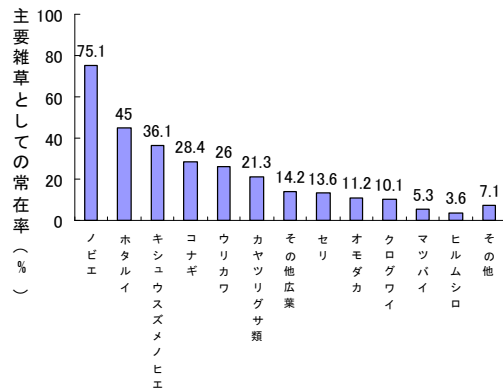


図1 主要雑草の発生状況

注) 複数回答。数値は(主要雑草とした農家数)/(全回答農家数)の百分率



図3 コナギ

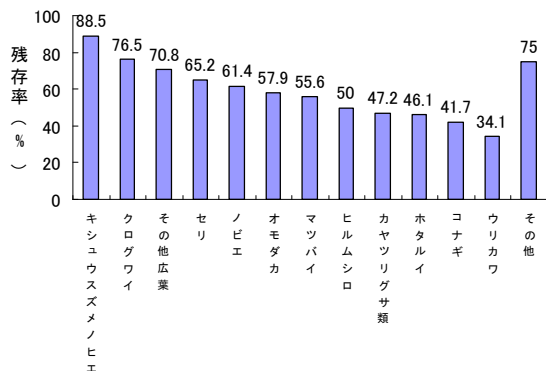


図2 除草剤使用後の残草種

注) 複数回答。数値は(除草剤使用後の残存草種とした農家数)/(主要雑草とした農家数)の百分率



図4 ホタルイ

実施年度：平成9年度

担当者：林恭弘、山本浩之